

新型コロナウイルスとの闘い

北海道編

緊張感に覆われた1か月

ついにオリンピックの延期が正式決定されたように、いま世界が新型コロナウイルスに翻弄されている。日本で最初に感染者が急増したのは北海道だった。鈴木直道知事が国に先駆けて緊急事態宣言を行ってから1か月、道内のボウリング場にも甚大な影響があったことは想像に難くないが、それへの対応を、北海道ボウリング場協会の黒田信幸会長(株厚別パークボウル社長)に伺った。

鈴木直道北海道知事が緊急事態宣言を行ったのが2月28日。

「あの瞬間から北海道の空気が一変しました。宣言が出たのが金曜日でしたが、その週末は、札幌の街も人通りが絶え、閑散としていました」

飲食店をはじめ、道内の産業に深刻な打撃を与えたが、ラウンドワンが道内の5店舗を3月4日から14日まで、また道内に8店舗を展開するディノスポウルも約1週間営業を自粛するなど、ボウリング場も対応を迫られた。

「それまでも団体の予約はキャンセルが出ていましたが、あの宣言以後は、どこのセンターもほぼゼロになったと思います。本来なら3月は、春休みや歓迎会などがあって、いちばんの書き入れ時なんですけどね、いちばん悪い月になってしまいました」

ボウリング場協会が主催する大会はすべて中止、あるいは延

期となった。協会としては、ボウリング場から感染者を出さないとの決意のもと、館内の衛生管理の徹底やこまめな換気、また同じボックスに2組入れないことなどを加盟センターに呼びかけた。

「従業員に対しても、勤務中はもちろんですが、普段の生活から気をつけるように指示を出しています。私のセンター(厚別パークボウル)では、3月の北海道はまだ気温が低いですけど、換気のため玄関は開けっ放しにしています」

緊急事態宣言が功を奏したのか、北海道ではその後3週間、



北海道ボウリング協会の黒田会長



◀各センターでは、徹底した除菌・除染で感染予防に努める一方で、お客さんにも注意喚起や協力を呼び掛けている。①はディノス札幌白石、②・③は厚別パークボウル、④は千歳フジボウル

感染者数は低い水準で推移し、19日には緊急事態宣言の終了を迎えた。

「宣言から3週目に入って少しはゆるんだ感もありますが、

それでも本来の活気とは程遠いし、千歳空港もガラガラです。4月5日に予定していた場協会主催ではいちばん大きい“北海道知事杯グローバル北海道ボウリングサミット”

は何とかやりたかったのですが、中止という結論になりました。さらに5月20日、十勝川温泉で予定していた場協会の総会も、密室で至近距離での会話のような状況は避けよう

ということで、中止になりました」

新型コロナウイルスとの闘いは、依然として終わりが見えていない。

追記

この記事をまとめている最中の3月25日には、小池百合子東京都知事が会見を行い、不要不急の外出自粛要請をするともに、首都封鎖の可能性にも言及、一気に東京で緊張が高まった。主戦場はどうか、小康状態の北海道から首都圏に移ってきたようだ。



▲厚別パークボウルでは、換気のため日中は玄関ドアを全開

新型コロナウイルスとの闘い

各団体の対応

各団体ともトーナメントは完全停止



▲5月中旬のNHK杯も延期が決定した(写真は昨年の大会)

3月に入って、スポーツイベントは軒並み中止か延期になっているが、7月24日開幕予定だった東京オリンピック・パラリンピックもついに延期が決定した。もちろんボウリングも例外ではなく、各ボウラー団体のトーナメントも相次いで中止や延期が決定している。各団体の事務局に、新型コロナウイルスへの現在の対応について聞いた。

プロテストは日程変更

JPBA(公益社団法人日本プロボウリング協会)は、今季の

開幕戦“WOMEN'S ALL☆STAR GAME”(2月1~2日)を終えたあと、“KUWATA CUP”を皮切りに、トーナメ

ントは中止・延期が続いている。さらには男子41名、女子10名が受験予定のプロテストも、実施延期が発表された。4月7~10日に東西の会場で予定されていた1次テストは、5月12~15日(1・2日目は大阪・牧野松園ボウル、3・4日目は京都・山科グランドボウル)で行われる。2次テストは、6月1週目の4日間で実施するよう調整中だ。

4月以降に予定されていたトーナメントの、現時点の変更情報は下記のとおり(今後の状況次第で再変更の可能性あり)。◎2020宮崎プロアマオープン(4月16~19日)→9月10~13日に延期 ◎グリコセブンティーンアイス杯第8回プロアマボウリング(5月23~24日)→7月・8月開催に向け調整中

◎スカイAカップ2020レディース新人戦(5月30・31日)→7月中旬~8月上旬開催で調整中

NHK杯もやむなく延期

JBC(公益社団法人全日本ボウリング協会)は、3月19日から実施予定だった全日本選手権を中止した。5月15日から17日まで埼玉・新狭山グランドボウルで開催予定のNHK杯全日本選抜選手権は、無観客など条件付きの開催も含めて、実施する方向で準備を進めていたが、4月に入ってやむなく延期を決定した。4月25日から5日間の日程で行われる予定だったナショナルチーム強化合宿を含め、6月19~21日の東日本、西日本選手権など、6月までのすべてのトーナメントの延期を発表した。

BPAJ(公益社団法人全日本ボウリング場協会)は、「感染対策はあくまでも個々のセンターでの対応となりますが、協会としてはBPAJニュース等をおとしてとるべき対策などを通達したり、アルコールや除菌

液が手に入りにくい状況なので、森友通商(株)さんに協力を頂いて、希望センターに次亜塩素酸水のあっせんなどを行っています」と岡田大明専務理事・事務局長。そして6月5日から長野・ヤングファラオで開催予定の“第54回BPAJ全国競技大会”は、4月の中旬には結論を出すそうだが、現在の状況からは延期となりそうだ。

NBF(日本ボウラーズ連盟)は、オリンピックイヤーということで、秋までは全国大会の代わりにブロック大会を中心にした特別編成だったが、2月の関西ブロック大会と関東ブロック大会を行ったあとは、中止が続いている。

ABBF(全国実業団ボウリング連盟)も、3月14・15日に行われる予定だった全国実業団支部対抗選手権に加え、4月から5月にかけて10の地域で行われる予定だったブロック大会が、すべて中止となった。